

竜喰谷 (リュウバミダニ)

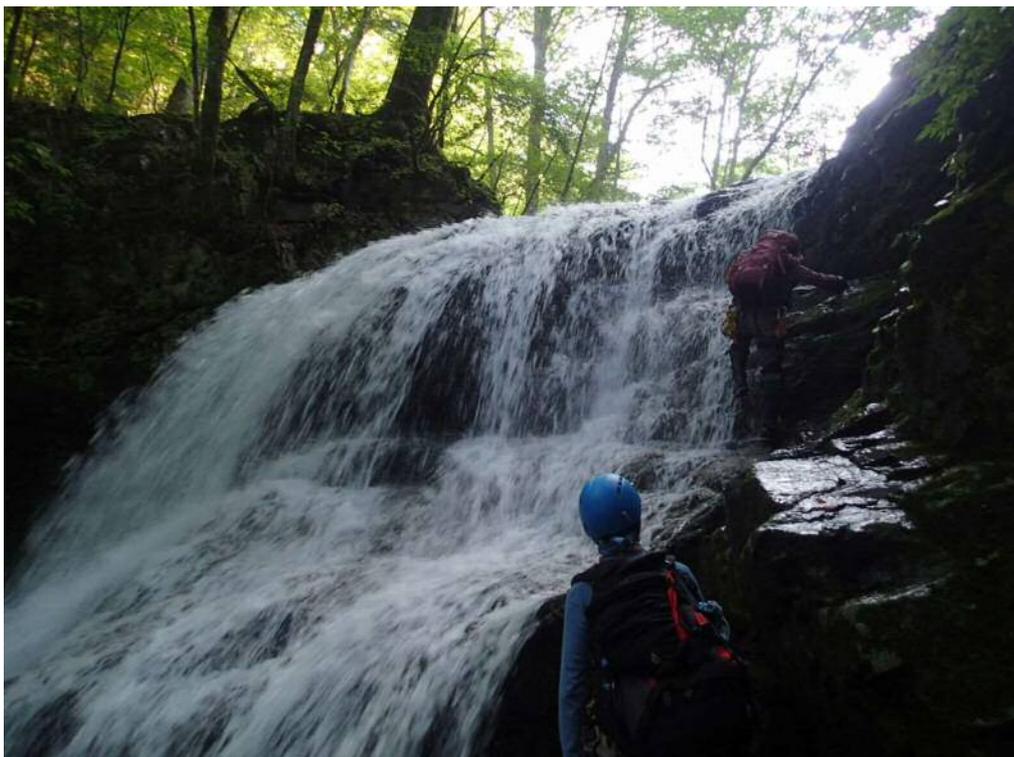
2019/8/4 (日) 晴

メンバー：ヤマメ (L)、杉浦昌子、磯部茂明 (記)

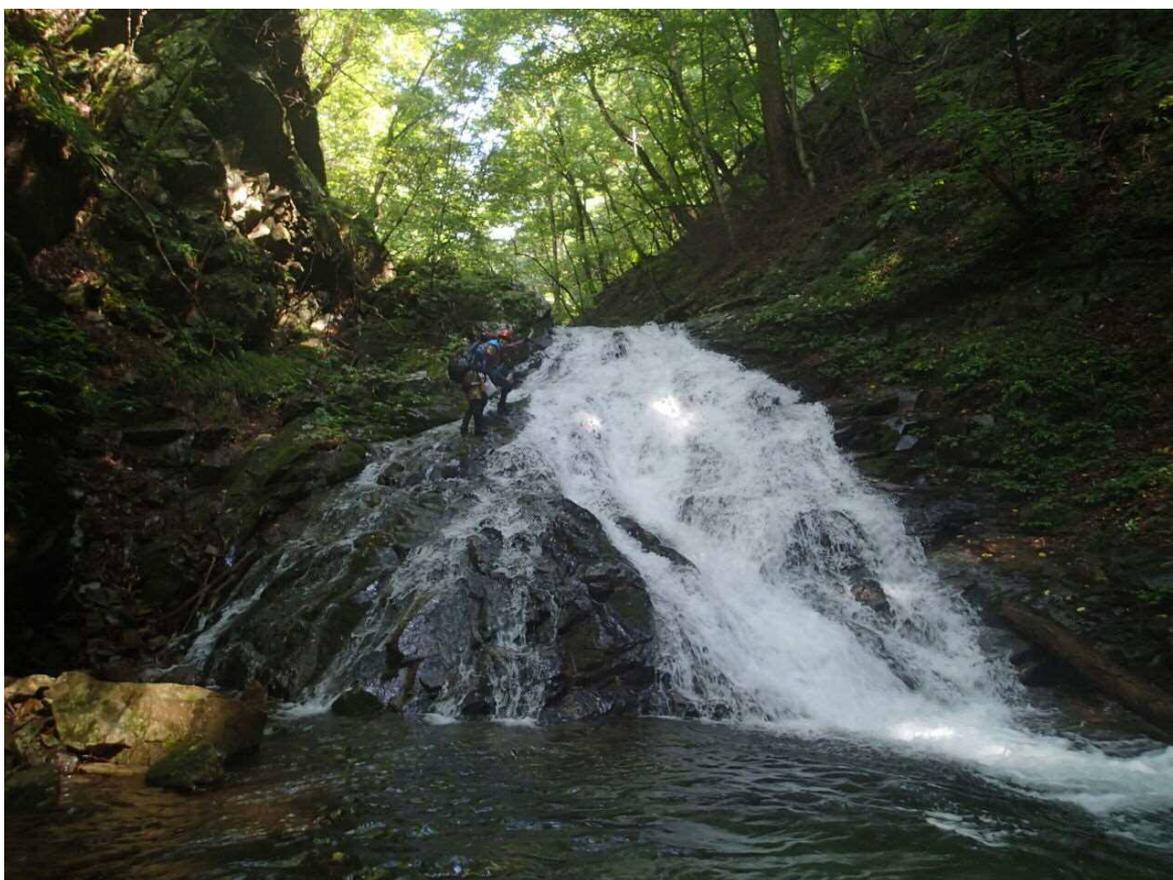
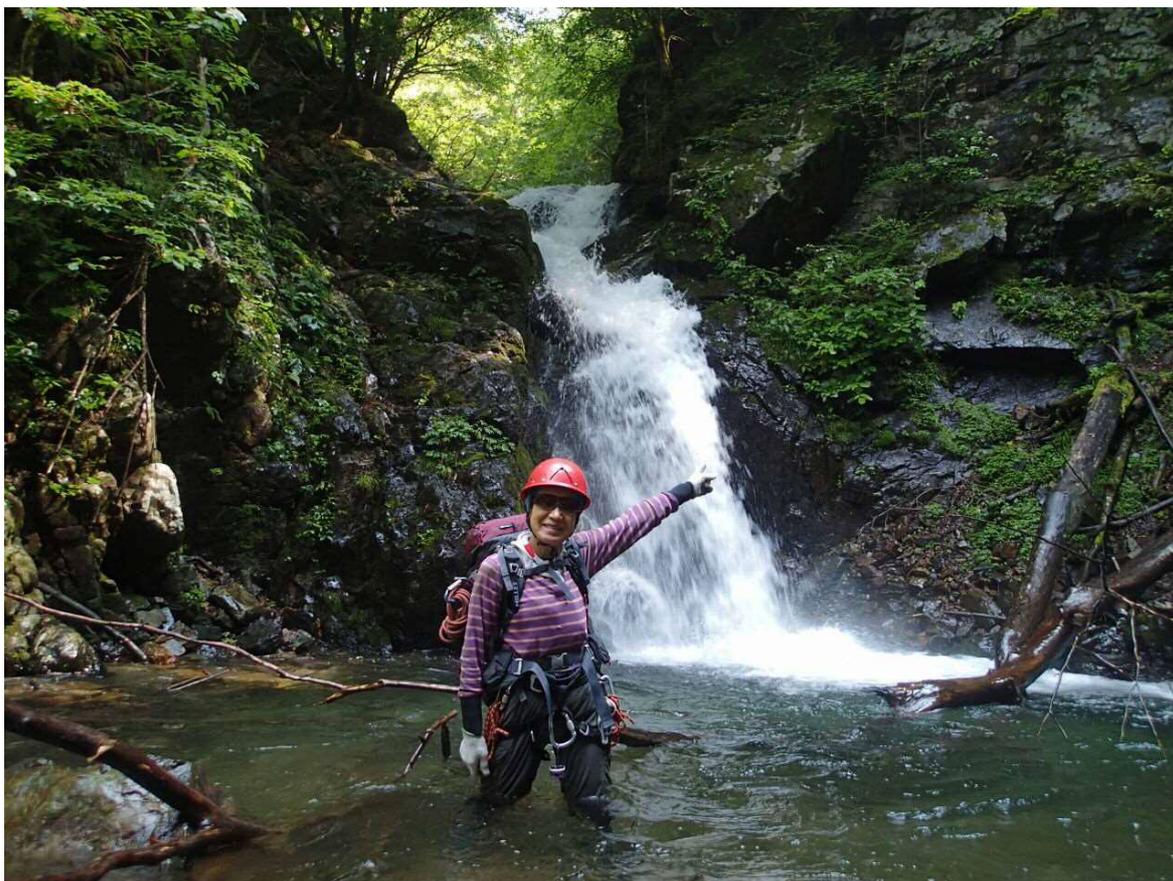
山梨県は東の果て、多摩川の奥の奥、甲府に出てからが遠かった～。青梅街道をひたすら走ってやっと着いた、丹波山温泉の道の駅で仮眠。水量は平常もしくはちょっと+くらいか。



滝は多め、しかも斜滝が多いため暑い夏に水を浴びて快適に直登できる。楽しい！
厳しい滝も巻き道があるので安心だ。クライミングの要素は少ない。



滝を見るとご機嫌なヤマメさん。ここは高巻きした。
水の中にしばらくいると、気持ちいい→寒い！という下界では考えられない8月酷暑の日。



後半から、溪流は大小の岩が織りなす景色から、森の深緑色に包まれていく。特にコケ類が、倒木や岩を包み込み、柔らかな気持ちになれる。下は貴重なコケらしい（杉浦さん談）。



シャワークライミング！！ 夏は沢が最高！って叫びたくなる滝。階段状になっていて見た目ほど厳しくない。ここでお助けロープを1回出したが、今回はそれだけ。





もう遊ぶしかないもんね！

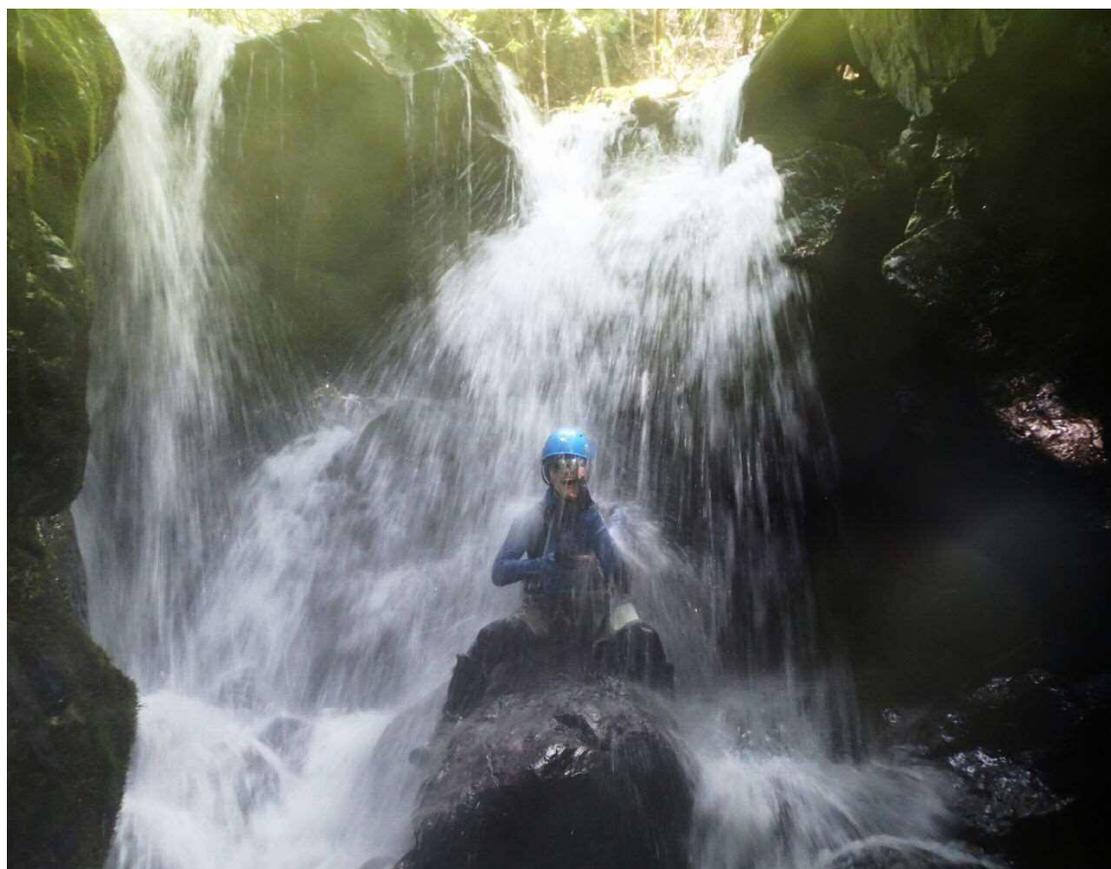
・・・修行僧のつもり。

もう体は冷え冷え！

でもこの非日常性が最高なんです。

↓杉浦さんも乗ってきて滝に
打たれるが、水圧に負けそう！

・・・でもがんばる図。





ラストは水量も減り、心地よい緑の森の世界。

遡行終了地点は、標高約 1500m。尾根までまだ 500m はあり、沢から尾根に出て登頂、という感動はないが、それでも十分堪能できた。

下山は、平坦なトラバース登山道を快適に進み、じきに林道にぶつかって淡々と駐車場まで。

登攀要素が少ないため、溪本来の美しさ、水と戯れる楽しさ（泳ぐ、潜る、はちょっと物足りなかったが贅沢は敵だ）を味わうことができ、素晴らしい1日だった。

* 帰りは、仮眠した道の駅の丹波山温泉に入る。

下界は・・・暑かった。別世界だ、ってこちらが残念ながら、現実だった。

<ざっくりタイム>

入溪 : 7 : 30

遡行終了 : 13 : 20

駐車場 : 15 : 40